



蒲郡自由クラブ
代表 鎌田篤司

市債残高抑制の考え方は

問 市長の2期目のマニフエストにおける市債残高削減について伺う。

答 市債残高削減は、2期目も積極的に取り組むが、公共施設の整備、インフラの改修や更新に多額の費用が必要と予測される。具体的な数値目標は定めていないが、現状の市債残高を増やさないという目標ラ

インを設定し、市債残高の一層の削減に取り組みたいと思っている。

新体育館の建設について

問 公共施設改修のひとつに新体育館の建設があるが、どのように考えているのか。

答 現在の位置も候補地として検討したが、取り壊しから競技場の完成まで3年ほどかかり、その間は利用できない。代替となる文化広場では、各競技団体の予定が組み込まれており、小中学校の体育館では駐車場、観戦場所の確保の問題や学校開放、部活動の利用等があり各種大会での使用は無理がある。そこで、建設用地として駅から近く、駐車場が十分確保できる競艇場の南東駐車場が最適地であると考えているが、検討会議の意見を聞いて候補地を決定したい。

再生医療への取り組みについて

問 蒲郡市民病院では、特定認定再生医療等委員会が国から認定を受けた。

この委員会の内容や実績は

答 当院では、平成27年7月に委員会が認定された。委員会では、各医療機関から提出された再生医療等提供計画に基づき、再生医療を実施しようとする医療機関について、各専門家の意見を踏まえ安全性の確保などを審査している。今までに、委員会は2回実施し、1回目は1医療機関から新規5件、2回目は3医療機関から新規3件、変更



特定認定再生医療等委員会を設ける蒲郡市民病院

1件を審査した。当院での再生医療の実施に当たっては、今後も引き続き大学側と話し合いを続け、実施に向けて努力していく。

幹線道路の整備と港の振興について

問 国道23号蒲郡バイパスをはじめとする市内幹線道路の今後について、どう考えているのか。

答 国道23号蒲郡バイパスは、27年度補正予算が8億円付き、豊川市側も工事が発注され順調に進んでいる。国道247号中央バイパスは、残すところ1.6kmが未供用区間。県に対して強く要望していく。大塚金野線は、インターチェンジから蒲郡に入る重要なアクセス道路であり、県に整備促進をお願いしている。名浜道路は、蒲郡港の機能を活用していくため、中部国際空港や新東名高速道路などのアクセス向上に必要で、南海トラフ巨大地震等が発生した際の緊急輸送道路、避難路であると考えている。



豊川為当ICまでの開通が待たれる国道23号蒲郡バイパス

問 蒲郡港は、市の財産であり、きちんと考えていく必要があると思うが、今後の展開を伺う。

答 蒲郡港の整備は、マイナス11m岸壁の供用開始により、自動車の輸出は前年比5割増を達成する勢いである。まずは、1バースの完全供用を目指して、県に残り4haの早期埋め立てを要望していくとともに、全体3バースの整備を国や県に要望していく。また、バルク等新規貨物の創出やクルーズ船の寄港等積極的にポートセールスに取り組